

障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	手帳なし（統合失調症）

2. 職場情報	
業種	製造業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	6時間/日
実習内容	ライン作業		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> 通院日に休みをもらえるように配慮をお願いした。 現場の職員から本人への声のかけ方について、本人の特性に合わせて、1つずつゆっくり指示を出すように伝えた。 チャレンジトレーニング最終日に、ハローワーク担当官と共に職場訪問し、主治医から、雇用するのであれば勤務時間の配慮が必要だと言われていることを伝えた。 		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 体調管理に気をつけて無理をしないように伝えた。また、不安を感じた際には現場の職員や担当者に自分から伝えるように助言した。 		

4. 就職後の様子	
仕事内容	ライン作業
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 主治医から言われたとおり、最初からフルタイム勤務ではなく、6時間勤務から始めることとした。 チャレンジトレーニング時には、統合失調症の症状が現れなかったが、疲れが溜まってくると症状が現れることがあるということを人事担当者や同じ現場で働く従業員にも伝えた。
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> 就職後も定期的（初めは週1度程度）に職場訪問や職場への電話連絡を行い、本人の様子確認や本人との関わりで困っていることなどを聞いている。 就職後3カ月弱経過した頃に、再度職場の職員に統合失調症の特徴について説明を行う。（就職3ヶ月程度経過した頃に症状が出るが多いため）
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジトレーニングを行ったことにより、本人に適した勤務時間の設定ができたと思う。 現場にはシルバー人材が多く、本人は力仕事で周りから頼りにされており、仕事場に馴染むことができている。現場の職員は統合失調症のことを気にせず本人と関わっている様子である。（雇用後2ヶ月経過時）